



Season 2026-27 subscription series *Booklet*

TOKYO PHILHARMONIC



May. 2026



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
ここ東京で華やかに色づくオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY **Rakuten Mobile** **MARUHAN** **LOTTE** **JP BANK** ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第1030回サントリー定期シリーズ

5月13日(水) 19:00開演 サントリーホール

第1031回オーチャード定期演奏会

5月17日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ

ソプラノ：高橋 維*

コンサートマスター：近藤 薫

5/13

5/17

シューマン(バッティストーニ編)：

『子供の情景』Op. 15(管弦楽版)〈世界初演〉(約20分)

1. 見知らぬ国々、見知らぬ人々
2. おかしな話
3. 鬼ごっこ
4. ねえお願い
5. 幸せいっぱい
6. 一大イベント
7. トロイメライ
8. 暖炉のそばで
9. 木馬の騎士
10. 思いつめて
11. こわいぞお
12. まどろむ子
13. 詩人は語る

－ 休憩(約15分) －

マーラー：

交響曲第4番 ト長調* (約55分)

- I. 落ち着いて、急がずに、本当にくつろいだ感じで
- II. くつろいだ動きで、せかせかしないで
- III. 安らぎに満ちて
- IV. きわめて心地よく

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))|
独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura(5/17)



- ♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。
- ♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。
- ♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。
- ♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。
- ♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。終演後のカーテンコールも、マナーを守ってお楽しみください。

出演者プロフィール



©Gorzegno

指揮

アンドレア・バッティストーニ

Andrea Battistoni, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 首席指揮者

1987年ヴェローナ生まれ。国際的に頭角を現す、同世代を代表する指揮者の一人。2013年～2019年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場の最初の首席客演指揮者、2016年10月より東京フィル首席指揮者。2025年1月よりトリノ王立歌劇場音楽監督、同年ワロ

ン王立歌劇場コンポーザー・イン・レジデンス、2026年1月よりオペラ・オーストラリア音楽監督。

東京フィルとは『ナブッコ』『リゴレット』『蝶々夫人』（二期会）、グランドオペラ共同制作『アイダ』、ローマ三部作、『展覧会の絵』『春の祭典』『カルミナ・ブラーナ』マーラー「交響曲第1番・第2番・第5番・第7番・第8番」等数多く共演。コンサート形式オペラ『トゥーランドット』（2015）、『イリス（あやめ）』（2016）、『メフィストフェレ』（2018）で批評家、聴衆の双方から音楽界を牽引するスターとしての評価を確立。同コンビで日本コロムビア株式会社よりCDを継続的にリリースしている。

スカラ座、フェニーチェ劇場、ベルリンドイツ・オペラ、ドレスデン州立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラ、アレーナ・ディ・ヴェローナ、マリインスキー劇場、ローマ・サンタ・チェチーリア管、イスラエル・フィル等世界の主要歌劇場・オーケストラと共演を重ねている。2017年に著書『マエストロ・バッティストーニのほくたちのクラシック音楽』（音楽之友社）を刊行。2021年、東京フィルとの録音『ドヴォルザーク新世界&伊福部作品』欧米盤が「OPUS KLASSIK 2021」交響曲部門（20-21世紀）を受賞。

Website <http://www.andreabattistoni.it/>Facebook <https://www.facebook.com/Andrea-Battistoni-159320417463885/>



ソプラノ

高橋 維

Yui Takahashi, soprano

東京学芸大学大学院及び東京藝術大学大学院修士課程修了。第 27回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。五島記念文化財団(現・東急財団)、明治安田クオリティオブライフ文化財団、ロームミュージックファンデーションの助成を得てウィーンにて研鑽を積む。

オペラでは、『魔笛』夜の女王、『フィガロの結婚』スザンナ、『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ等、多くのプロダクションに出演。近年は日生劇場『ランメルモールのルチア』タイトルロール、ORCHARD PRODUCE 2025『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、東京二期会『こうもり』アデーレ等で聴衆を魅了した。

コンサートでも、ヘンデル「メサイア」、ベートーヴェン「交響曲第9番」、マーラー「交響曲第4番」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」、シェーンベルク「月に憑かれたピエロ」等に出演する他、東京オペラシティリサイタルシリーズ「B→C バッハからコンテンポラリーへ」では意欲的なプログラムと完成度の高い演唱で話題を呼んだ。NHK「ニューイヤーオペラコンサート」「クラシックTV」、テレビ朝日「題名のない音楽会」等メディアにも数多く出演し注目を集めている。二期会会員。

楽
曲
紹
介解
説
＝
船
木
篤
也

「歌唱部は子供らしい朗らかな表情で、一貫してパロディなしで!」。マーラーは、彼の交響曲第4番の第4楽章に、そう記した。子供になりきれ、ということだろう。本日前半の『子供の情景』も、子供そのものである大人、シューマンが、そのような者のために書いた音楽といえそうだ。彼は恋人のクララにこう言ったことがあった。「純粹と無垢の天使たる君、ほくを子供時代に戻しておくれ!」。本日指揮を執る東京フィルの首席指揮者、バツティストーニも、「『子供の情景』の子供は理想化された存在です」と述べている。

もっとも、無垢な存在「子供」は、つねに可愛らしさや善良さを体現しているとは限らない。聞き分けがなかったり、残酷だったりもするわけで、いわば白黒の世界を往き来する。本日の2作品は、そんな両面性を表現している点で共通しているだろう。ト長調で始まりト長調で終わる点でも同じ。マーラーがシューマンを敬愛していたことも覚えておきたい。

シューマン(バツティストーニ編) 『子供の情景』Op. 15(管弦楽版)

ローベルト・シューマン(1810-1856)はあらゆるジャンルの音楽作品を残したが、創作初期にあたる1830年から1840年までは、もっぱらピアノ作品を集中的に書いた。ただし作風はいろいろに変わっており、比較的小規模な断章、それらを集めた曲集、そしてソナタと試みていったあと、1837年に一つの画期がやってくる。文学的な題を持つピースによる曲集が目立ってくるのだ。

『子供の情景』もそのひとつ。そう、これは元来ピアノ作品であり、1838年の2月から3月にかけて書かれたさまざまな小曲から13作を選んだ曲集である。ハーモニを関連づけるなど、全体で一つのツィクルスを構成しようとする意志が認められるので、恣意的な「寄せ集め」ではない。各曲の題は以下のとおり。

第1曲「見知らぬ国々、見知らぬ人々」、第2曲「おかしな話」、第3曲「鬼ごっこ」、第4曲「ねえお願い」、第5曲「幸せいっぱい」、第6曲「一大イベント」、第7曲「トロイメライ」、第8曲「暖炉のそばで」、第9曲「木馬の騎士」、第10曲「思いつめて」、第11曲「こわいぞお」、第12曲「まどろむ子」、第13曲「詩人は語る」。

なお、第6曲の「一大イベント」とは、クリスマスを示しているだろう。カール・ゴットリープ・ヘリング作曲のクリスマスソング「明日になったら、子供たち、何かあるよね」(1809年)の旋律が中間部に隠されているのだ。第7曲にいうトロイメライとは、ドイツ語の「夢(トラウム)」からできた語で、「夢みごち」といった意味である。

この時期、シューマンの一大悲願として「結婚」があった。相手は、当時若くしてすでに名声を博していたピアニスト、クララ・ヴィーク。本作を成すにあたっては、いつの日か彼女と実現させたい家庭生活への「大人の思い」も働いていたことだろう。またシューマンによれば、クララはかつて彼に向かって「時々子供のように思えることがある」と言ったという。本作は、そのことばの「余韻のようなもの」だと、シューマン自身が証言している。つまり本作は、必ずしも文字どおりの子供を外から見て描写したものではないのだ。

本日は、指揮を執るアンドレア・バッティストーニ自身の編曲による管弦楽版を、その世界初演を聴く。楽器編成表からもわかるとおり、使用楽器は古典派の交響作品のそれと大きく違わず、また打撃音をこととするティンパニの使用を第6曲、第9曲、第11曲に限定している。ホルンは4本と多めだが、これももっぱら柔らかな響きを生むために用いられている。

【作曲年代】1838年【原曲(ピアノ曲)】

【初演】2026年5月13日、東京、サントリーホールにて、アンドレア・バッティストーニ指揮東京フィルハーモニー交響楽団による【バッティストーニによる管弦楽版】

【楽器編成】フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部

マーラー 交響曲第4番 ト長調

グスタフ・マーラー(1860-1911)は、いまでこそ作曲家と見られているが、生前は、第一に指揮者であった。第4交響曲を彼がタクトをとって初演したのは1901年。その2年後、ユリウス・ブーツなる指揮者が同曲を再演する際、マーラーは、この作品が持つ「フモア(フモール)」を聴衆にわかるように演奏して欲しいと伝えた。

フモアとは何か？ 英語の「ユーモア」と同じとする向きもあるが、ここでは、マーラーが愛読したドイツ・ロマン派の作家、ジャン・パウル(1763-1825)にならうのがよいだろう。彼によれば、フモアは偉大なものをあえてコケにし、卑小なものをあえて高めてみせる。つまり、「とるにたらぬ事とすごい事」「笑いと涙」といった対立を、限りなく相対化してみせる態度をいう。対立はその結果、無効となる。「永遠の前では、すべては同じで、無にほかならないからだ」。

マーラーの本作でいえば、たとえばソプラノ独唱が加わる第4楽章。その第4連でうたわれる「一万一千の乙女ら」は、歌詞対訳につけた注(12ページ)にあるとおり、歴史上、大変な悲惨をなめたはず。それがこの詩では「踊りだしたりする」。悲しみが、笑いへと転じているのだ。

マーラーはこの詩に「天国の暮らし」という題を付けた。詩そのものは、ドイツ語民謡詩集『少年の不思議な角笛』から採られたもので、マーラーはまず、ピアノ伴奏でこれに作曲し、次いでそこからオーケストラ伴奏版を作った。ハンブルクの歌劇場監督を務めていた頃、1892年のことである。これを第4楽章に据え、さらに先行する3楽章を新たに作って、第4交響曲ができたのだ。脱稿は1901年1月。マーラーが晴れてウィーン宮廷歌劇場の音楽監督に就いてから、3年と3カ月が経っていた。

第1楽章(落ち着いて、急がずに、本当にくつろいだ感じで) 不思議な笛と鈴の音で開始。だがそれも、あっという間にしぼんでしまう。そして、それに被さるようにして、ヴァイオリンが小唄のような平易な旋律を歌い出す。チェロによる第2主題

もみるからに素朴。だが、そのうちドンチャン騒ぎが始まって大混乱が生じる。フモア的あべこべの世界といえよう。

第2楽章 (くつろいだ動きで、せかせかしないで) 挿入部(トリオ)を2つともなう、田舎風の舞曲レントラー。通常とは異なる調弦(スコルダトゥーラ)による不気味なヴァイオリン・ソロがつきまとい、全体は「死神の踊り」といった雰囲気。

第3楽章 (安らぎに満ちて) 涙と笑みが同居する、まさにフモア的世界。変奏曲の形で書かれた平穏な音楽だが、突如光が射したように、クライマックスがやってくる。トランペットが吹いているのは第1楽章・展開部のモチーフ。そこにホルンがぶつけるのは、次に来る第4楽章のヨーデルふうの主題だ。

第4楽章 (きわめて心地よく) 冒頭クラリネットが、どこかヨーデルを思わせるのどかな旋律を吹く。ソプラノが歌い出す旋律もこれ。折にふれて、交響曲冒頭で聞こえた鈴のモチーフが、シャンシャンとけたたましく鳴る。静と動、もしくは平安と喧噪の同居。これもフモアの世界である。

【作曲年代】1899～1900年(1901～10年改訂) 【初演】1901年11月25日、ミュンヘン、カウム・ザールにて。作曲者自身の指揮による

【楽器編成】フルート4(3番・4番はピッコロ持ち替え)、オーボエ3(3番はイングリッシュ・ホルン持ち替え)、クラリネット3(2番はE♭クラリネット、3番はバス・クラリネット持ち替え)、ファゴット3(3番はコントラファゴット持ち替え)、ホルン4、トランペット3、ティンパニ、打楽器(大太鼓、トライアングル、シンバル、タムタム、グロッケンシュピール、鈴)、ハーブ、弦楽5部、独奏ソプラノ

ふなきあつや(音楽評論家)／1967年生まれ。「読売新聞」で音楽評を、NHK-FMでクラシック音楽番組の案内役を担当。雑誌等でも執筆。東京藝術大学他でドイツ語講師。著書に『三月一日のシューベルト 音楽批評の試み』(音楽之友社)、共著に『魅惑のオペラ・特別版: ニーベルングの指環』(全4巻、小学館)、共訳書に『アドルノ 音楽・メディア論集』(平凡社)。

歌詞対訳

訳=船木篤也

5/13

**Mahler, Symphonie Nr. 4,
Text vom 4. Satz**

マーラー 交響曲 第4番 ト長調 より
第4楽章

5/17

Wir genießen die himmlischen Freuden,
D'rum tun wir das Irdische meiden,
Kein weltlich' Getümmel
Hört man nicht im Himmel!
Lebt alles in sanftester Ruh'!
Wir führen ein englisches Leben!
Sind dennoch ganz lustig daneben!
Wir führen ein englisches Leben!
Wir tanzen und springen,
Wir hüpfen und singen!
Sankt Peter im Himmel sieht zu!

ここで味わうのは 天上のよろこび
地上のあれこれに 煩わされたりはしない
世の中の雑音など
ここ天国には これっぽっちも聞こえてこない
ものみな全てが とても安らかに憩っている
なんといっても 天使の暮らしだからね
でも おもいきり楽しくやっているよ
なんといっても 天使の暮らしだからね
踊っては とんで
跳ねては うたう
聖ペテロさまが こちらをじっと見ている

Johannes das Lämmlein auslasset,
Der Metzger Herodes drauf passet!
Wir führen ein geduldig's,
Unschuldig's, geduldig's,
Ein liebliches Lämmlein zu Tod!
Sankt Lucas den Ochsen tät schlachten
Ohn' einig's Bedenken und Achten,
Der Wein kost' kein Heller
Im himmlischen Keller,
Die Englein, die backen das Brot.

ヨハネさまが あの子羊をお放しになる
殺し屋ヘロデが それを狙ってる
おとなしい なんにもしらない
おとなしい かわいい子羊を
みんなして殺すんだ
聖ルカさまが 雄牛をうちのめす
気にとめる様子など まるでなし
ワインを飲むにも 飲み代いらす
ここは天国食堂
パンは天使たちが焼いてくれる

Gut' Kräuter von allerhand Arten,
Die wachsen im himmlischen Garten!
Gut' Spargel, Fisolen
Und was wir nur wollen!
Ganze Schüsseln voll sind uns bereit!
Gut' Äpfel, gut' Birn' und gut' Trauben!
Die Gärtner, die alles erlauben!
Willst Rehbock, willst Hasen,
Auf offener Straßen
Sie laufen herbei!
Sollt' ein Fasttag etwa kommen,
Alle Fische gleich mit Freuden
angeschwommen!
Dort läuft schon Sankt Peter
Mit Netz und mit Köder
Zum himmlischen Weiher hinein.
Sankt Martha die Köchin muß sein!

おいしいお野菜が いろいろ
天国の庭には 育つんだ
おいしいアスパラに インゲン
欲しいものなら なんでも
ポウルいっぱい頂ける
おいしいリンゴに おいしいナシ それからブドウも
お庭係りが なんでもかなえてくれる
ノロジカやウサギのお肉がよければ
おもてに出ればいい
向こうから飛んでくるんだから
それがご精進の日だったら
いろんなお魚が それはもう嬉しそうに
わんさと来るから 大丈夫
ほらもうあそこに 聖ペテロさまが
網と餌をもって
天国のお池に お入りだよ
お料理係りは もちろん聖マルタさまだ

Kein' Musik ist ja nicht auf Erden,
Die uns'rer verglichen kann werden.
Elftausend Jungfrauen
Zu tanzen sich trauen!
Sankt Ursula selbst dazu lacht!
Kein Musik ist ja nicht auf Erden,
Die uns'rer verglichen kann werden.
Cäcilia mit ihren Verwandten
Sind treffliche Hofmusikanten!
Die englischen Stimmen
Ermuntern die Sinnen,
Daß alles für Freuden erwacht.

地上にこんな音楽はないでしょう
この音楽には かなわないはず
一万一千もの乙女たちが
踊りだしたりするのですから
聖ウルスラさまも それをみて微笑んでいらっしやる
地上にこんな音楽はないでしょう
この音楽には かなわないはず
チェチャーリアさまと そのお仲間たちは
とても秀でた 宮廷楽士
天使たちの声をきくと
体じゅうが よみがえるよう
こうして のみならずすべてが よろこびに目覚めるのです

Aus „Des Knaben Wunderhorn“

民謡集「少年の不思議な角笛」より

《対訳注》

ペテロ(聖): ガリラヤ湖の漁師シモン・ペテロは、12使徒の筆頭格。ユダヤ大司祭の下役に対してイエスを「知らない」と偽証したが、後に布教活動を熱心に行った。皇帝ネロの時代(紀元後64年頃)にローマで殉教したといわれる。「天国の扉の番人」として信仰を集める。

ヨハネ(洗礼者・聖): 紀元後27年頃からユダヤの荒野で説教を始め、ヨルダン川で信奉者たちに洗礼を施した。イエスもその洗礼を受けた一人であり、イエスを「神の子羊」と呼んだのは、このヨハネである。

ヘロデ(大王): 紀元前37年から後4年まで、エルサレムに王朝を築きパレスチナのユダヤ民族を支配。前代王朝を築いたハスモン家の影におびえ、その一族を暗殺した。ただし、幼子イエスの抹殺を目的にベツレヘムで幼児を虐殺したという話は、史実でないといわれる。

ルカ(聖): 「ルカによる福音書」の作者。ギリシア出身とみられる。師パウロの伝道旅行に随伴。師から「我らの愛する医者」と呼ばれたが、後の伝承では画家であったともいわれる。「羽の生えた子牛」がシンボル。

マルタ: ベタニアのマリヤの姉。弟にラザロがいる。ルカ書によれば、イエスを迎えた際、妹マリヤが主の言葉に聞き入るあいだ、もっぱら接待に心をくだいたという。ヨハネ書にも、マリヤがイエスの足に塗油するあいだ給仕役に回っていた、とある。

ウルスラ(聖): ブリタニア王の娘。紀元後4世紀頃、1万1千人の処女らを侍らせ、ケルン、バーゼル経由で、ローマに巡礼。ケルンに戻ったところで異教徒フン族に襲われた。服従よりも死を選ぶべしと侍女らを諭し、自らも殉教したという。

チェチーリア(聖): 紀元後2、3世紀の人物。異教徒だった夫とその兄弟を改宗させ、その2人が殉教した後に自らも殉教したと伝えられる。9世紀に遺体に移された場所に、サンタ・チェチーリア教会(ローマ)が建てられた。オルガンと教会音楽の守護聖人とされている。

The 1030th Suntory Subscription Concert
Wed. May 13, 2026, 19:00 at Suntory Hall

The 1031st Orchard Hall Subscription Concert
Sun. May 17, 2026, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

Andrea Battistoni, conductor

Yui Takahashi, soprano*

Kaoru Kondo, concertmaster

Schumann (orchestration by Andrea Battistoni): Kinderszenen (Scenes from Childhood), Op. 15

〈World Premiere〉 (ca. 20 min)

1. Von fremden Ländern und Menschen (Of Foreign Lands and Peoples)
2. Kuriose Geschichte (A Curious Story) 3. Hasche-Mann (Blind Man's Buff)
4. Bittendes Kind (Pleading Child) 5. Glückes genug (Perfect Happiness)
6. Wichtige Begebenheit (An Important Event) 7. Träumerei (Dreaming)
8. Am Kamin (By the Fireside) 9. Ritter vom Steckenpferd (Knight of the Hobby-Horse)
10. Fast zu ernst (Almost Too Serious) 11. Fürchtenmachen (Frightening)
12. Kind im Einschlummern (Child Falling Asleep)
13. Der Dichter spricht (The Poet Speaks)

13
May

17
May

— intermission (ca. 15 min) —

Mahler: Symphony No. 4 in G major* (ca. 55 min)

- I. Bedächtig. Nicht eilen (Deliberate. Not hurried)
- II. In gemächlicher Bewegung. Ohne Hast (In leisurely motion. Without haste)
- III. Ruhevoll, poco adagio (Serene)
- IV. Sehr behaglich (Very leisurely)

Presented by Tokyo Philharmonic
 Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |
 Japan Arts Council
 In Association with **Bunkamura** (May 17)



- ♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- ♪ Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

Artists Profile



©Gorzegno

Andrea Battistoni, conductor

Chief Conductor of the Tokyo Philharmonic

Born in Verona in 1987, Andrea Battistoni is a rising star with an international reputation as one of the most important conductors of his generation.

He served as the first Principal Guest Conductor of the Teatro Carlo Felice in Genoa from 2013 to 2019, and has been Chief Conductor of the Tokyo Philharmonic since 2016. He was appointed Music Director of the Teatro Regio di Torino in January 2025, Composer-in-Residence at the Opéra Royal de Wallonie in Liège in 2025, and Music Director

of Opera Australia in Sydney in January 2026.

In Tokyo, he has proven to be a sensation, captivating audiences with his charisma and sensitive musicality. He has conducted the Tokyo Philharmonic Orchestra in operas such as *Nabucco*, *Rigoletto*, *Madama Butterfly* (Nikikai), and *Aida* (a co-produced grand opera), as well as in numerous symphonic works, including the *Roman Trilogy*, *Pictures at an Exhibition*, *The Rite of Spring*, *Carmina Burana*, and Mahler's Symphonies Nos. 1, 2, 5, 7, and 8. The concert-style operas he has led - *Turandot* (2015), *Iris* (2016), and *Mefistofele* (2018) have secured his reputation as a leading light with critics and audiences alike. He has been regularly releasing CDs with the Tokyo Phil through Nippon Columbia.

Other noteworthy engagements include: Teatro alla Scala, La Fenice in Venice, Deutsche Oper Berlin, Bayerische Staatsoper in Munich, the Royal Opera House-Covent Garden, Semperoper of Dresden, Arena di Verona, Mariinsky Theater, and world-renowned orchestras such as the Filarmonica della Scala, Accademia di Santa Cecilia, and Israel Philharmonic.

His book, *Non è musica per vecchi* was published by Rizzoli 2012, and by Ongaku-No-Tomo-Sha in Japan in 2017.

In 2021, Andrea Battistoni, performing with Tokyo Phil, won the OPUS KLASSIK Prize 2021 in the 20th/21st Century symphonic category, one of the most prestigious classical awards in Europe, for their international disc, "Dvorak: Symphony No. 9, 'From the New World' & Works of Akira Ifukube."

Website <http://www.andreabattistoni.it/>

Facebook <https://www.facebook.com/maestrobbattistoni>



Yui Takahashi,
soprano

13
May

17
May

Graduated from Tokyo University of the Arts Graduate School. Received the 27th Goto Memorial Culture Award for New Opera Artists. Trained in Vienna.

Appearances include Cleopatra in Nikikai's *Giulio Cesare*, the Queen of the Night in *Die Zauberflöte*, Susanna in *Le nozze di Figaro*, Zerbinetta in *Ariadne auf Naxos*, Pepi in *Wiener Blut*, Eurydice in *Orphée aux Enfers*, Adele in *Die Fledermaus*, the title role in Nissay Theatre's *Lucia di Lammermoor*, Musetta in *La Bohème* conducted by Tetsuro Ban, Valencienne in *Die lustige Witwe* produced by Yutaka Sado, and Zerlina in ORCHARD PRODUCE 2025's *Don Giovanni*.

In concerts, she has performed works such as Handel's *Messiah*, Beethoven's 9th Symphony, Mahler's Symphony No. 4, and Orff's *Carmina Burana*, and in the Tokyo Opera City Recital Series "B→C: From Bach to Contemporary". She has also appeared in many media programs, including NHK's "New Year's Opera Concert," "Classic TV," TV Asahi's "Untitled Concert," and NHK-FM's "Recital Passio," and is active in a wide range of media. A member of Nikikai.

Program Notes

Text by Robert Markow

Schumann (orchestration by Andrea Battistoni): Kinderszenen (Scenes from Childhood), Op. 15

The thirteen short, intimate piano pieces that constitute Schumann's *Kinderszenen* were written in 1838 and published the following year. They quickly established themselves as some of the composer's most popular music, and No. 7, "Träumerei," has become one of the icons of western culture. While this is not music expressly *for* children, it is *about* children. (Music *for* children to play came later, the *Album for the Young*, Op. 68, in 1848.)

Schumann was particularly drawn to the whole world of childhood in all its freshness, innocence and simplicity. In a letter to his fiancée Clara Wieck, he claimed that these pieces were inspired by her remark that he "sometimes seemed to be like a child." Each vignette captures to perfection some aspect of recollected childhood: rapt absorption in thought, a soaring imagination, a moment of fear, desire to be someone or someplace else, unadulterated joy, or a confusing dream. Eventually the child drifts off into slumberland, and the final word goes to a "poet," whom we may well imagine to be the composer himself. Schumann wrote to a friend that "in my compositions I myself have become brighter, softer and more melodious. You will already have noticed this in my *Kinderszenen*." The whole marvelously evocative, poetic world of this music is embodied in the words of the poet Chamisso: "the dream of one's own days which are now far distant."

Although Schumann claimed that he affixed the titles afterwards, it is difficult not to imagine the reverse. How can one *not* be dreaming of faraway landscapes and strange peoples in No. 1? How can No. 4 depict anything but a "Pleading Child" who constantly nags for the same thing over and over? And what is No. 9 if not someone trotting along on a horse?

We hear *Kinderszenen* at this concert in conductor Andrea Battistoni's orchestration, which is receiving its world premiere. Here are Mr. Battistoni's thoughts on the subject:

"Schumann's music has always held a special place in my repertory. As a young cellist, I tackled many of his works for the instrument. His Fourth Symphony was the work with which I made my professional debut as a

13
May

17
May

conductor. I consider Schumann one of the greatest composers of all time; his artistic legacy continues to strike me as an exceptionally original voice within the Romantic landscape. Above all, he is a composer with whom I firmly share the belief that music is an alternative form of narration – or storytelling. Schumann’s music always seems to be telling a story.”

“A brilliant miniaturist, Schumann always gives his best in intimate forms of musical expression. The famous *Kinderszenen* (Scenes from Childhood) are the best examples of this special affinity for brief pianistic gems. For Schumann, the child is perhaps the prototype of the Romantic artist. Fascinated by Schumann’s rich piano writing, I sought to orchestrate this celebrated suite as a tribute to the great composer’s spirit without betraying his unique sound world. The instrumentation is therefore designed for a medium-sized orchestra that Schumann himself might have used. No trombones, no harp, no glittering percussion: only an intimate orchestra capable of maintaining that quasi-chamber dimension inherent in so much of this extraordinary composer’s music.”

ROBERT SCHUMANN: Born in Zwickau, June 8, 1810; died in Edenich, July 29, 1856

Work composed: 1838 [original piano version]

World premiere: May 13, 2026 at Suntory Hall in Tokyo, by the Tokyo Philharmonic conducted by Andrea Battistoni

Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, timpani, strings

13
May17
May

Mahler: Symphony No. 4 in G major

Each of Mahler’s ten enormous symphonic edifices inhabits a world of its own and can boast any number of unique features. The Fourth is a special symphony in the Mahler canon for its general air of childlike charm and gentle radiance, the absence of spiritual turmoil, its transparent textures, modest orchestral forces (trombones and tuba are absent; horns are just four in number, percussion is used discreetly), relative brevity (under an hour) and use of a song as the concluding movement.

The Symphony's first three movements were written in the summers of 1899 and 1900. A song Mahler had written in 1892 for soprano and piano was orchestrated and became the symphony's finale, the subject of which (a child's view of heaven) is the goal to which the previous movements all aspire. Mahler himself led the Kaim Orchestra of Munich in the first performance of the Fourth Symphony on November 25, 1901.

Only a split second is needed to identify the composition that opens with flutes playing even, repeated notes a fifth apart accompanied by jangling sleigh bells; nothing else sounds remotely like it. The good-natured, *gemütlich* first theme slides in with sunny radiance in the fourth bar, bringing to mind the composer's comparison of the symphony's basic mood to "a sky of unbroken blue ... only occasionally does it grow dark with ghostly menace." The basic tonality of the symphony is G major, a key often associated with genial moods and folksong. This movement proves to be one of Mahler's most fertile in terms of thematic content. The first theme alone contains three separate elements (the smiling violin tune, a rising bass line, a few chuckles from the horn). A brief, jaunty, martial tune in the clarinets leads immediately into the yearning melody sung by cellos. A new mood is established by the woodwinds playing a perky, amusing, almost dance-like idea. Mahler then proceeds to incorporate this multitude of melodic strands into what musicologist Michael Steinberg calls a "game of interruptions, resumptions, extensions, reconsiderations, and unexpected combinations."

The second movement (Scherzo) portrays a dance of death of Freund Hein, a popular character in German fairytales. His instrument is a country fiddle tuned a tone higher than normal in order to produce an unearthly, harsh sound. The music is sinister, to be sure, but at the same time it also retains a sense of humor. Mahler described the effect as "a grisly, sudden feeling that comes over us, just as one is often panic-stricken in broad daylight in a sunlit forest." Two bucolic trios interrupt the dance, tempering its evil connotations and looking forward to the joys of a life in heaven.

The otherworldly serenity and ineffable beauty of the third movement bring us to the threshold of the heavenly life that awaits us in the finale. Mahler told his disciple, the conductor Bruno Walter, that his vision in this movement was that of a church sepulcher "showing a recumbent stone image of the deceased with his arms crossed in eternal sleep." Mahler used the double

13
May17
May

variation form (developing two different melodic ideas in alternation), much as Beethoven had done in the *Adagio* of his Ninth Symphony. In a sudden outburst near the end of the movement, the full orchestra proclaims in brilliant colors a grandiose vision of heaven. The proclamation by the horns anticipates the melody the soprano will sing in the following movement.

The fourth movement is relatively short, but it perfectly and exquisitely fulfills its mission of depicting a child's view of heaven as a place of serene delight, simple joys and quiet mystery. The child's voice speaks to us in the words of a poem from *Des Knaben Wunderhorn* (The Youth's Magic Horn), a famous nineteenth-century collection of German folk poetry. Interspersed between the verses are brief reminders of earthly life (the symphony's opening flutes and bells motif is now transformed into a harshly aggressive figure), but each time the text returns us to comforting celestial visions. The final moments bring us to the realization that this music does not really end, but rather fades into the quietude of heavenly peace.

GUSTAV MAHLER: Born in Kalischt, Bohemia, July 7, 1860; died in Vienna, May 18, 1911

Work composed: 1899-1900 (revised 1901-10)

World premiere: November 25, 1901 at Kaim-Saal in Munich, conducted by the composer

Instrumentation: 4 flutes (3rd and 4th doubling on piccolo), 3 oboes (3rd doubling on English horn), 3 clarinets (2nd doubling on clarinet in E \flat , 3rd doubling on bass clarinet), 3 bassoons (3rd doubling on contrabassoon), 4 horns, 3 trumpets, timpani, percussion (bass drum, triangle, cymbals, tam-tam, glockenspiel, sleigh bells), harp, strings, solo soprano

13
May17
May

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for numerous orchestras and other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

Season 2026-27 Upcoming Subscription Concerts

The Tokyo Philharmonic's 2026-27 season has a rich array of masterpieces that capture the true essence of orchestral music awaits audiences. Please join us on our musical journey and enjoy every concert, filled with musical joy, together with the Tokyo Philharmonic.

<p>June 2026</p>	<p>Thu, Jun 18, 2026, 19:00 start at Suntory Hall Sun, Jun 21, 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall</p> <p>Mozart: Overture to the opera “Le nozze di Figaro” Mozart: Violin Concerto No. 3 Mozart: Symphony No. 40</p>	<p>Conductor & Violin: Pinchas Zukerman</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available</p>
<p>July 2026</p>	<p>Thu, Jul 23, 2026, 19:00 start at Suntory Hall Sun, Jul 26, 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall Wed, Jul 29, 2026, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p>	<p>Conductor: Myung-Whun Chung <i>Honorary Music Director</i> Carmen: Stéphanie d’Oustrac Don José: Matthew Polenzani Escamillo: Nicolas Courjal Micaëla: Slávka Zámečnicková Zuniga: Yoshiaki Kimura Moralès: Hiromichi Kobayashi Le Dancaïre: Tatsuhiko Kitagawa Le Remendado: Kôta Murakami Frasquita: Airi Sunada Mercédès: Asami Fujii Chorus: New National Theatre Chorus (Chorusmaster: Kyohei Tomihira) Children Chorus: Setagaya Junior Chorus (Children Chorusmaster: Midori Kakee) Flamenco: Compañía de Ballet Español Kaori Haeno (Choreography by Kaori Haeno / Dancers: Kaori Haeno, Keiko Inoue, Yoshie Tani, Haruhiko Okuhama)</p> <p>Bizet: Opera “Carmen” (concert style)</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available</p>
<p>August 2026</p>	<p>Thu, Aug 6, 2026, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall Tue/Holiday, Aug 11, 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall</p> <p>Mendelssohn: Violin Concerto Rimsky-Korsakov: Symphonic suite “Scheherazade”</p>	<p>Conductor: Ken-Ichiro Kobayashi Violin: Keila Wakao</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available</p>

Season 2026-27 Upcoming Subscription Concerts

October 2026	<p>Thu, Oct 15, 2026, 19:00 start at Suntory Hall</p> <p>Fri, Oct 16, 2026, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p> <p>Sun, Oct 18, 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall</p>	<p>Conductor: Myung-Whun Chung <i>Honorary Music Director</i></p> <p>Violin: Maxim Vengerov</p>
	<p>Sibelius: Violin Concerto Beethoven: Symphony No. 7</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available</p>	
November 2026	<p>Sun, Nov 15, 2026 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall</p> <p>Mon, Nov 16, 2026, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p>	<p>Conductor: Mikhail Pletnev <i>Special Guest Conductor</i></p>
	<p>Pletnev: 14 Mémoires musicales (2024) Tchaikovsky: Symphony No. 4</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available</p>	
January 2027	<p>Thu, Jan 21, 2027, 19:00 start at Suntory Hall</p> <p>Mon, Jan 25, 2027, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p>	<p>Conductor & Bassoon: Sophie Dervaux</p>
	<p>Mozart: Overture from opera “The Magic Flute” Weber: Bassoon Concerto (The 200th anniversary of Weber’s death) Brahms: Symphony No. 1</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available</p>	
February 2027	<p>Thu, Feb 18 2027, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p> <p>Wed, Feb 24, 2027, 19:00 start at Suntory Hall</p>	<p>Conductor: Myung-Whun Chung <i>Honorary Music Director</i></p> <p>Piano: Saehyun Kim</p>
	<p>Beethoven: Piano Concerto No. 4 (The 200th anniversary of Beethoven’s death) Saint-Saëns: Symphony No. 3 “Organ”</p> <p style="text-align: right;">Single tickets available</p>	

Ticket Prices

()=Discount prices for TOKYO PHIL FRIENDS

SS¥15,000 S¥10,000(¥9,000) A¥8,500(¥7,650) B¥7,000(¥6,300) C¥5,500(¥4,950)

How to join TOKYO PHIL FRIENDS ⇒ <https://www.tpo.or.jp/en/tickets/friends.php>

Inquiries about tickets

Tokyo Phil Ticket Service tel: **03-5353-9522**
(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



東京フィルだより - 2026-27シーズン 今後の定期演奏会

6月定期演奏会

1回券発売中

第1032回サントリー定期シリーズ

6月18日(木) 19:00 サントリーホール

第1033回オーチャード定期演奏会

6月21日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮・ヴァイオリン: ピンカス・ズーカーマン

モーツァルト／歌劇『フィガロの結婚』序曲

モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲第3番

モーツァルト／交響曲第40番



特設ページ

7月定期演奏会

1回券発売中
※残席僅少

第1034回サントリー定期シリーズ

7月23日(木) 19:00 サントリーホール(予定枚数終了)

第1035回オーチャード定期演奏会

7月26日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

第175回東京オペラシティ定期シリーズ

7月29日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

※東京オペラシティ定期シリーズは定期会員券でもご購入いただけます

指揮: チョン・ミョンファン(名誉音楽監督)

カルメン: ステファニー・ドゥストラック

ドン・ホセ: マシュー・ポレンザーニ

エスカミーリョ: ニコラ・クルジャル

ミカエラ: スラーフカ・ザーメチニーコヴァー

合唱: 新国立劇場合唱団(合唱指揮: 富平恭平)

児童合唱: 世田谷ジュニア合唱団(児童合唱指揮: 掛江みどり)

フラメンコ: 南風野香スペイン舞踊団(振付: 南風野香) ほか

※出演者の詳細はp26もご参照ください



ビゼー／歌劇『カルメン』  オペラ演奏会形式 

全3幕・日本語字幕付き原語(フランス語)上演／公演時間: 約3時間(休憩含む)

【料金】1回券 SS席¥15,000 S席¥10,000 A席¥8,500 B席¥7,000 C席¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時／発売日を除く土日祝休)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

6月定期演奏会の聴きどころ



巨匠ズーカーマンと見据える モーツァルトの核心

文=青澤隆明

©上野隆文

6月定期演奏会にはヴァイオリニスト／ヴィオリスト、そして指揮者として世界から尊敬を集めるピンカス・ズーカーマンが昨年に続いて登場。オーケストラとの信頼を交わしつつ、今年生誕270年を迎えた作曲家の後期交響曲と自身の「弾き振り」を含むオール・モーツァルト・プログラムでその真摯かつ闊達な世界に迫ります。

人はさまざまな夢をみる。なかでも、オーケストラ音楽は、人類がみたもっとも壮大な夢のひとつだろう。ひと連なりの時間のなかで、ひとりひとりがともに遥かな夢をみるのである。

東京フィルハーモニー交響楽団の今シーズンも、広大な時空を旅するプログラムが組まれている。ビゼーやサン＝サーンス、マーラー、リムスキー＝コルサコフで19世紀の後半を歩み、シベリウスで20世紀をまたぐだけでなく、近くはプレトニョフが2024年に書いた「音楽的記憶」にも臨む。いっぽうで古くを遡れば、ウェーバーが今年、ベートーヴェンが来年で没後200年。そしてモーツァルトは今年で生誕から270年を数えた勘定になる。6月定期、オール・モーツァルトの傑作プログラムは、多種多様なオーケストラ音楽の鉅脈に範たる金字塔のようなものだ。

ピンカス・ズーカーマンが昨年の同じく6月、東京フィルとの3年ぶりの再会に指揮したのはモーツァルトの『ジュピター』。エルガーのセレナードでは壮大な弦楽器を奏できるように指揮し、ハイドンのハ長調協奏曲を弾き振りして圧巻のヴァイオリンを聴かせた後に見据えたのがこのハ長調の大交響曲だった。「モーツァルトの『ジュピター』、とくに最終楽章は音楽史上の革命である。構造を分析的によくよく理解していないと、演奏することは到底無理だ」と語り、すべてを統合する天才の卓抜きについてズーカーマンは称賛を惜しまなかった。

ヴァイオリンについて言えば、今夏78歳になる名手の確実な表現構築は稀代のものだ。彼自身の前言を真似れば、おそらく演奏史上めったにない、この齢にしてこの圧倒的な揺るぎなさで、その存在自体が革命的と称えてよいだろう。規律と基礎が骨の髄まで一体化しているからこそその直截^{ちよくせつ}さで、音楽を即座にしかとつかみ、まっすぐ簡潔に伝えきる。モーツァルトと並べたら、きっとズーカーマンに叱られるが、それでも彼という名手が音楽家として堂々たる歩みを現代に示してきたことは歴史的な驚異とみられる。

「長い旅だ。もう70年近くもやってきて、いまも自分がおなじ水準を維持していることを望んでいる」と前回の来日公演に先立って語っていたズーカーマン。「私には多くの規律があり、ルーティーンがある。朝起きてコーヒーを一杯飲み、スケールを練習する。音楽の多くの部分は物理的な存在によって創られるのだから。正確なポジションをつかみ、それを自分で体系化し、さらに音楽について学んでいく。自分を教えるのは自分自身。ほんとうに自分が知らないことばかりだと信じられれば、人はもっと多くを知ることができる」。



©上野隆文

「ほんとうに自分が知らないことばかりだと信じられれば、人はもっと多くを知ることができる」

続けてズーカーマンは、15歳くらいのとき、チェロの巨匠パウ(パブロ)・カザルスに個人レッスンを受けたことを話し出した。「カザルスは一時間半かけて、ト長調の7つほどの音をさまざまに弾いた。それだけで世界のすべてを網羅していた。それからおもむろに『いまからバッハを弾く』と言ってト長調組曲を弾き出した」。偉大な演奏は一音一音の確信、分析と理解と多様な表現によって構築されるのである。

そして、音が少なければ少ないほど、簡明であればあるほど、音の確信と存在感は求められよう。ほんとうは数の問題ではないし、単純にみえて多義的であることはいったんおくとしてもだ。モーツァルトは迷わなかった。演奏家はその一刻一刻を瞬時につかみ、解き放たなくてははいけない。だからズーカーマンのように決然とした精神と精確な表現技巧が必要なのだ。

ヴァイオリンを弾いても指揮をしても、ズーカーマンの芯は変わりようがないが、しかし自ら弾くことを通じて、奏者たちの心を自ずとつよく惹きつける。昨年の初夏、プレコンサートのメンデルスゾーンの八重奏から拡大するように、



2025年6月定期演奏会より、プレコンサートでの弦楽八重奏 ©上野隆文

ズーカーマンの信を正面から率直に受けとめ、ともに音楽する大きな心を求めていったのが、コンサートマスター三浦章宏をはじめとする東京フィルの奏者たちの真率な共鳴と情熱だった。一年と置かずにその記憶を更新することで、なお強くモーツァルトの透徹した世界に近づいていくものと期待される。

「比類なき『ジュピター』が当時の音楽を変えたと話したが、さらに言えば、第40番の出だしからして、すでにクレイジーだ。この音楽はどこから始まるのか？ 山地からやってくるのか、そして山羊が啼いたりするのか……」とズーカーマンは笑っていたが、ハ長調の大傑作を経て、次の再会では東京フィルとト短調の後期交響曲に臨むことになった。その前にはト長調のヴァイオリン協奏曲、ザルツブルク時代の成功作をヴァイオリンの弾き振りで。序曲は輝かしいニ長調の『フィガロの結婚』だ。

篤き信望の物語は、各分野の史上の傑作とともに世代を繋ぎ、こうして高く挑みを続けて行くのである。

あおさわ たかあきら／東京外国語大学英米語学科卒。高校在学中からクラシックを中心に音楽専門誌などで執筆。評論、エッセイ、インタビューを、新聞、一般誌、演奏会プログラムやCDなどに寄稿。主な著書に『現代のピアニスト30—アリアと変奏』(ちくま新書)、ヴァレリー・アファナシエフとの『ピアニストは語る』(講談社現代新書)、『ピアニストを生きる—清水和音の思想』(音楽之友社)。

7月定期 チョン・ミョンフン指揮 ビゼー『カルメン』(オペラ演奏会形式)
出演者決定!

7月定期演奏会(7月23・26・29日)名誉音楽監督チョン・ミョンフン指揮ビゼー『カルメン』
(オペラ演奏会形式)の全出演者が決定いたしました。

ビゼー／歌劇『カルメン』  オペラ演奏会形式

全3幕・日本語字幕付き原語(フランス語)上演／公演時間:約3時間(休憩含む)

指揮: チョン・ミョンフン
(名誉音楽監督)

カルメン: ステファニー・ドゥストラック

ドン・ホセ: マシュー・ポレンザーニ

エスカミーリョ: ニコラ・クルジャル

ミカエラ:

スラーフカ・ザーメチニーコヴァー

スニガ: 木村善明

モラレス: 小林啓倫

ダンカイロ: 北川辰彦

レメンダード: 村上公太

フラスキータ: 砂田愛梨

メルセデス: 藤井麻美

合唱: 新国立劇場合唱団

(合唱指揮: 富平恭平)

児童合唱: 世田谷ジュニア合唱団

(児童合唱指揮: 掛江みどり)

フラメンコ: 南風野香スペイン舞踊団

(出演: 南風野香(振付)、井上圭子、
谷 淑江、奥濱春彦)



名誉音楽監督チョン・ミョンフンが語る 7月定期演奏会 ビゼー『カルメン』(オペラ演奏会形式)



「オペラ『カルメン』は、言うまでもなくオペラのレパートリーの中でも最も有名で、最も愛されている作品の一つです。それには十分な理由があります。なぜなら、この作品はほぼ完璧なオペラの一つだからです。私たちをその世界へと完全に引き込んでくれます。舞台はスペインですが、わずか2時間あまりの上演時間の中で、スペイン文化やその雰囲気、そしてロマ(ジプシー)の世界へと深く没入させてくれます。美しく、非常にエンターテインメント性に富み、そして極めてドラマティック。数多くの美しいアリア、二重唱、有名な五重唱などがあり、常に特別な体験を与えてくれる作品だと思います。

東京フィルとは6年前にもこの作品を上演しましたが、再び取り組む機会を得ることで、さらに多くの色彩や意味を探索することができます。そして、より一層輝かしく、よりエンターテインメント性に富んだ公演になることを願っています」

1回券チケット、東京オペラシティ定期シリーズ会員券好評発売中

お問合せ

東京フィルチケットサービス

東京フィルWEBチケットサービス

03-5353-9522(平日10時~18時/土日祝休)

<https://www.tpo.or.jp/>

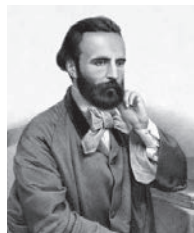


7月定期演奏会は名誉音楽監督チョン・ミョンフンが登場、2020年2月に続き、ビゼーの傑作オペラ『カルメン』を演奏会形式で上演します。2027年から世界に冠たるオペラの殿堂ミラノ・スカラ座の音楽監督への就任が決まっているマエストロ。スカラ座やスカラ・フィルとの関係、そして東京フィルとの現在地をお伝えします。

オペラの殿堂、ミラノ・スカラ座のマエストロ チョン・ミョンフン

この7月、チョン・ミョンフンが東京フィルの定期演奏会で『カルメン』を指揮する。これは今回の公演の背景を理解すればするほど興奮を抑えられない情報である。

マエストロ チョンは周知のとおり、東アジア出身の指揮者としては世界でもっとも認められた存在で、来シーズンからはミラノ・スカラ座の音楽監督に就任する。このオペラの殿堂の音楽監督がどれだけ特別な座であるか。それはマリアーニ (Angelo Mariani, 1821-1873) にはじまり、ファッチョ (Franco Faccio, 1840-1891)、トスカニーニ (Arturo Toscanini, 1867-1957)、セラフィン (Tullio Serafin, 1878-1968)、デ・サバタ (Victor De Sabata, 1892-1967)、ジュリーニ (Carlo Maria Giulini, 1914-2005) と連なる歴代の名を記すだけで十分に伝わると思う。ここ半世紀はアバド (Claudio Abbado, 1933-2014)、ムーティ (Riccardo Muti, 1941-)、バレンボイム (Daniel Barenboim, 1942-)、シャイー (Riccardo Chailly, 1953-) と続き、その次にマエストロ チョンが来るのだ。



ミラノ・スカラ座の最初の音楽監督、アンジェロ・マリアーニ。

そしてマエストロは、6月にスカラ座で『カルメン』を指揮する。いわば音楽監督就任前のお披露目を兼ねて10公演を振り、その翌月、主要4キャストはスカラ座からそのまま引き連れ、東京フィルで演奏会形式による上演が実現される。そこにはチョン・ミョンフンの構想が垣間見え、東京フィルの公演への期待がなおさら高まる。

マエストロ チョンとスカラ座との関係はとても深い。共演の実績は三十数年になり、これまでにオペラを八十数回指揮し、シンフォニーオーケストラとしてのスカラ座フィルとは、150回以上のコンサートを共にしている。時間をかけて信頼関係を深め、マエストロ自身も進化および深化した末に、音楽監督としてこの最高峰の殿堂を率いる。その前に「これがマエストロ チョンだ!」とばかりに力を示す作品として『カルメン』が選ばれた。

マエストロはスカラ座のオーケストラの音や特徴を熟知している。いつも艶やかで輝かしい音色を引き出し、縦のラインに執着しすぎずに歌い続けるこのオーケストラの特性を活かして、歌心あふれるしなやかな音楽を紡ぎ出す。この手腕は、昨年行われたスカラ座フィルの日本公演でも存分に発揮された。6月の『カルメン』でも、スカラ座らしいカンタービレとリズム感が引き出され、聴衆のあいだで新しい音楽監督への期待感が否応なく高まるに違いない。

マエストロ チョンは理想の『カルメン』を東京フィルで

それが終わって1カ月とあいだを開けずに指揮するのが、東京フィルの『カルメン』なのである。マエストロ チョンがこの公演にかける意気込みが、おのずと伝わってくる。

マエストロと東京フィルの関係は、スカラ座との関係に負けずとも劣らない。2001

ミラノ・スカラ座歴代音楽監督 * ()内は在任期間
アンジェロ・マリアーニ(1846-1872)
フランコ・ファッチョ(1871-1889)
アルトゥーロ・トスカニーニ(1898-1908,1921-1929)
トリリオ・セラフィン(1909-1914, 1917-1918)
ヴィクトル・デ・サバタ(1929-1953)
カルロ・マリア・ジュリーニ(1953-1956)
グイード・カンテッリ(1956)
ジャンドレア・ガヴァツツェーニ(1965-1968)
クラウディオ・アバド(1968-1986)
リッカルド・ムーティ(1986-2005)
ダニエル・バレンボイム(客演指揮者:2007-2011、音楽監督:2011-2014)
リッカルド・シャイー(2015-2026)
チョン・ミョンフン(2027-)



2020年2月定期で『カルメン』を指揮するマエストロ チョン・ミョンフン ©上野隆文

年からスペシャル・アーティスト・アドバイザーを務め、桂冠名誉指揮者を経て、2016年からは名誉音楽監督を務める。その関係はすでに四半世紀におよび、東京フィルのサウンドに大きな影響をあたえてきた。マエストロ自身、「東京フィルとの関係は友人を経ていまでは家族になった」と語り、昨年はその「家族」を率いて、ヨーロッパ7カ国8都市での公演を大成功裏に終わらせている。

おそらくマエストロ自身、スカラ座と東京フィルをとりわけ大切にする背景には、それぞれの違った個性を鮮明にしたいという思いがあるのだろう。『カルメン』になぞらえていうなら、スカラ座での演奏は、澄んだ艶やかな響きによるしなやかさが強調されそうだが、東京フィルには、細部まで計算された緻密なアンサンブルと、強烈なラテン的エネルギーが期待されているように思う。

筆者の想像も交えていけば、マエストロ チョンは自分が理想とする『カルメン』を、スカラ座以上に東京フィルで実現したいのではないだろうか。スカラ座では演出のダミアノ・ミキエレットが、舞台を20世紀のスペインの田舎町に置き換え、伝統的なラテンの世界の描出よりも、社会の閉塞感や闇を浮き彫りにすることが優先される。一方、東京フィルの公演に向けてマエストロは、「スペインの情熱や色彩感がより際立ち、エンターテインメント性の高い上演になる」と語り、自身のアイデアでフラメンコも加える。

スカラ座での10公演を経て、マエストロの解釈はさらに深まるだろうし、歌手たちともますます呼吸が合うようになるだろう。その状態をすぐに東京に持ち込んで、東京フィルとの3公演。緻密なアンサンブルにラテン的エネルギーを加え、スペインの色彩を横溢させる。それこそがマエストロ・チョンが理想とする『カルメン』に違いない。それが聴ける私たちは、なんと恵まれていることか。だから興奮が抑えられないのである。



2020年2月定期演奏会『カルメン』カーテンコールより
©上野隆文

かはらとし／神奈川県横浜市出身。歴史評論家、音楽評論家。早稲田大学教育学部社会科地理歴史専修卒業。日本古代史から近世史まで、幅広く執筆活動を行う。音楽評論家としてはオペラを中心にクラシック音楽全般について評論活動を続ける。主な著書に『教養としての日本の城』など。

News & Information

軽井沢大賀ホールClassics2026

「阪田知樹 ベートーヴェン ピアノ協奏曲リサイタル」

日時 8月9日(日)16:00開演(15:30開場)

出演 ピアノ: 阪田知樹 指揮: 大友直人

管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団

曲目 モーツァルト／歌劇『皇帝ティートの慈悲』序曲

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第4番、第5番『皇帝』

料金(税込・全席指定) SS席¥8,000 S席¥6,000

A席¥5,000 B席¥4,500 C席(2階立見席)¥3,500

W席(2階合唱席)¥5,000

チケット問合せ 軽井沢大賀ホールチケットサービス

0267-31-5555(10:00~18:00[休館日を除く])、東京フィル

チケットサービス03-5353-9522(平日10:00~18:00/土日

祝休) 他プレイガイド

主催:軽井沢大賀ホールCLASSICS実行委員会(実行委員長大賀緑)／協賛:Totsu株式会社／協力:公益財団法人軽井沢大賀ホール、公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団、ハーベスト・コンサーツ／後援:軽井沢町、軽井沢町教育委員会



阪田知樹 ©HIDEKI NAMAI

大友直人 ©Rawland Kirishima

9月「第108回休日の午後のコンサート〈秋の大感謝祭〜イタリア編〜〉」 ゲスト決定!

9月20日の第108回休日の午後のコンサート(指揮とお話:三ツ橋敬子)のゲスト出演者が決定いたしました。日本イタリア外交関係樹立160周年を祝い、レスピーギ《ローマ三部作》とともにイタリアにまつわる楽しいお話をお届けします。

チケットは4回セット券・1回券(1回券は5月12日(火)より最優先販売、5月16日(土)より優先/WEB優先販売開始)発売中。残席わずかにつき完売となりました際はご了承ください。






パンツェッタ・ジローラモ

建築一家の三男として、ナポリ建築大学在学中に亡き父の後を継ぐ。主に政府からの依頼を受け、歴史的建造物の修復にたずさわる。1988年から日本在住。以降、多数雑誌、番組などで祖国イタリアについて紹介。2006年、本国より騎士の称号「カバリエ〜イタリア連帯の星勲章」を贈られる。2014年3月、【連続して最も多くファッション誌の表紙を飾った数(男性モデル)】という記録名でギネスワールドレコーズ2014に世界記録として認定。(現在も更新中)

2026-27シーズン 今後の定期演奏会

東京フィルの2026-27シーズン、各公演1回券ならびに東京オペラシティ定期シリーズ(★)定期会員券が好評発売中です。世界を舞台に活躍するマエストロたちとの音楽の喜びに満ちたドラマティックなコンサートが、皆様をお待ちしています。

6月	第1032回 6月18日(木) 19:00 サントリーホール	指揮・ヴァイオリン*: ピンカス・ズーカーマン	
	第1033回 6月21日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール		
モーツァルト／歌劇『フィガロの結婚』序曲 モーツァルト／ヴァイオリン協奏曲第3番* モーツァルト／交響曲第40番			聴きどころはこちら 1回券発売中
7月	第1034回 7月23日(木) 19:00 サントリーホール	指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)	
	第1035回 7月26日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	カルメン: ステファニー・ドゥストラック	
	第175回 7月29日(水) 19:00 ★ 東京オペラシティ コンサートホール	ドン・ホセ: マシュー・ポレンザーニ エスカミーリョ: ニコラ・クルジアル ミカエラ: スラフカ・ザメチニーコヴァー スニガ: 木村善明 モラレス: 小林啓倫 ダンカイロ: 北川辰彦 レメンダード: 村上公太 フラスキータ: 砂田愛梨 メルセデス: 藤井麻美 合唱: 新国立劇場合唱団(合唱指揮: 富平恭平) 児童合唱: 世田谷ジュニア合唱団(児童合唱指揮: 掛江みどり) フラメンコ: 南風野香スペイン舞踊団(出演: 南風野香(振付)、井上圭子、谷 淑江、奥濱春彦)	1回券発売中・残席僅少
ビゼー／歌劇『カルメン』〈オペラ演奏会形式〉 全3幕・日本語字幕付き原語(フランス語)上演 公演時間: 約3時間(休憩含む)			1回券発売中・残席僅少
8月	第176回 8月6日(木) 19:00 ★ 東京オペラシティ コンサートホール	指揮: 小林研一郎	
	第1036回 8月11日(火・祝) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	ヴァイオリン: 若尾圭良*	
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲* リムスキー=コルサコフ／交響組曲『シェエラザード』			1回券発売中

お問合せ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 (平日10時～18時・土日祝日休/
発売日の土日祝は10時～16時)
URL www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)

詳細はこちら



10月	第1037回 10月15日(木) 19:00 サントリーホール	指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) ヴァイオリン: マキシム・ヴェンゲーロフ*
	第177回 10月16日(金) 19:00 ★ 東京オペラシティ コンサートホール	
第1038回 10月18日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール		
	シベリウス/ヴァイオリン協奏曲* ベートーヴェン/交響曲第7番	1回券発売中
11月	第1039回 11月15日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	指揮: ミハイル・ブレトニョフ(特別客演指揮者)
	第178回 11月16日(月) 19:00 ★ 東京オペラシティ コンサートホール	
	プレトニョフ/14の音楽的記憶(2024) チャイコフスキー/交響曲第4番	1回券発売中
2027年 1月	第1040回 1月21日(木) 19:00 サントリーホール	指揮・ファゴット*: ソフィー・デルヴォー ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団およびウィーン国立歌劇場管弦楽団首席ファゴット奏者
	第179回 1月25日(月) 19:00 ★ 東京オペラシティ コンサートホール	
	モーツァルト/歌劇『魔笛』序曲 ウェーバー/ファゴット協奏曲*(ウェーバー没後200年) ブラームス/交響曲第1番	1回券発売中
2月	第180回 2月18日(木) 19:00 ★ 東京オペラシティ コンサートホール	指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) ピアノ: キム・セヒョン* オルガン: 石丸由佳**
	第1041回 2月24日(水) 19:00 サントリーホール	
	ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第4番*(ベートーヴェン没後200年) サン＝サーンス/交響曲第3番『オルガン付き』**	1回券発売中

※公演により予定枚数終了となっている場合がございます。詳しくは東京フィルウェブサイトまたはチケットサービスへお問合せください。

◆1回券料金(全席指定・税込)

SS席¥15,000 S席¥10,000(¥9,000) A席¥8,500(¥7,650)
B席¥7,000(¥6,300) C席¥5,500(¥4,950) ()=東京フィルフレンズ料金

◆東京オペラシティ定期シリーズ(★) 定期会員券(6公演通し券)料金

SS席¥72,000 S席¥42,000(¥37,800) A席¥35,700(¥32,130)
B席¥29,400(¥26,460) C席¥23,100(¥20,790) ()=東京フィルフレンズ料金

※7月29日公演では2階L1/R1列1-22、2階L2/R2列2-20、3階L1/R1列1-24、L2/R2列3-22を合奏演奏エリアとして販売を停止するため、このエリアのお席は7月定期を除いた「5回券」とさせていただきます。詳しくはウェブサイト等をご参照ください。

午後のコンサート。2026-27シーズンラインナップ

昼下がりにリラックス気分でフル・オーケストラの演奏を堪能できる、東京フィルの大人気シリーズ「午後のコンサート」。迫力満点の生演奏の合間に出演者が皆様のご質問にお答えするコーナーもあり、楽しいひとときをお過ごしいただけます。今シーズンも皆様のお越しをお待ちしております。



イラスト:ハラダチエ

渋谷の午後のコンサート 会場:Bunkamuraオーチャードホール 開演14:00

7月5日(日)第30回

旅する北欧

指揮とお話:横山 奏
ヴァイオリン:吉本梨乃
ゲスト・語り:石丸謙二郎

1回券発売中



©平館平 ©藤田啓二

9月13日(日)第31回

チェロ弾きの休日

指揮とお話:
円光寺雅彦
チェロ:山崎伸子

1回券発売中



©K.Miura

12月6日(日)第32回

ジャズに魅せられて

指揮とお話:挟間美帆
トランペット:黒田卓也

※12月7日(月)平日の午後のコンサートと同演目です。

1回券8月発売



©Dave Stapleton

平日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

8月12日(水)第41回

コバケンの ベートーヴェン!

指揮とお話:
小林研一郎
ピアノ:金子三勇士
ナビゲーター:朝岡 聡

予定枚数終了



©K.Miura ©Seichi Sato

10月5日(月)第42回

絢爛たる一族

指揮とお話:角田鋼亮
ヴァイオリン:服部百音
※10月4日(日)休日の午後のコンサートと同演目です。

1回券発売中



©Makoto Kamiya

©YUJI HORI

12月7日(月)第43回

ジャズに魅せられて

指揮とお話:挟間美帆
トランペット:黒田卓也

※12月6日(日)渋谷の午後のコンサートと同演目です。

1回券8月発売



©Dave Stapleton

2027年2月10日(水)

第44回

不死鳥が舞う

指揮とお話:出口大地
ピアノ:花房晴美

1回券8月発売



©hiro.pberg berlin

©武藤幸

休日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

9月20日(日)第108回

秋の大感謝祭
～イタリヤ編～

指揮とお話:三ツ橋敬子
ゲスト:パンツェッタ・ジローラモ



©Earl Ross

出演決定!

1回券発売中

10月4日(日)第109回

絢爛たる一族

指揮とお話:角田鋼亮
ヴァイオリン:服部百音

※10月5日(月)平日の午後のコンサートと同演目です。



©Makoto Kamiya

©YUJI HORI

1回券発売中

11月29日(日)

第110回

オーケ
なんでもOKストラ!!

指揮とお話:
円光寺雅彦
ピアノ:清塚信也



©上野隆文

1回券8月発売

2027年3月7日(日)

第111回

春、はばたく。

指揮:
ケンショウ・ワタナベ
チェロ:鳥羽咲音



©Abigel Kralik

©Julia Wesely

1回券8月発売

午後のコンサート チケット価格

◆4回セット券(各シリーズ共通) ※「平日/渋谷」シリーズの4回セット券は販売を終了しております

4回セット券料金	S席	A席	B席	C席
定価	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
東京フィルフレンズ会員	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560

◆渋谷/平日/休日 各シリーズ共通 1回券料金

4回セット券料金	S席	A席	B席	C席
定価	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
東京フィルフレンズ会員/WEB優先発売期間	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

※1回券は4回セット券販売後に残席がある場合のみ販売いたします。完売となりました際はご了承ください。

※やむを得ない事情により、出演者・曲目などが変更になる場合がございます。

※公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしかねます。

※未就学児のご入場はお断りしております。東京オペラシティでの公演では

託児サービス(要予約・有料)をご利用いただけます。ご予約はマザーズの公式LINEよりお申し込みください。

Mother's



マザーズ
公式LINE

お問合せ・お申込み 東京フィルチケットサービス

03-5353-9522 (平日10時～18時/土日祝休 発売日の土日祝のみ10時～16時で営業)

東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>



Photo Reports 2026年2月～3月のコンサートより

2月の定期演奏会は名誉音楽監督チョン・ミョンフンが登場。昨年秋のヨーロッパ・ツアー以後最初の定期演奏会で、いっそう深まった信頼と磨かれたアンサンブルをお届けし絶賛を博しました。事業提携都市公演として2月に千葉県千葉市、新潟県長岡市、3月に東京都文京区で公演を行ったほか、3月22日には東京都新宿区の新宿文化センターリニューアルオープン記念演奏会で首席指揮者バティスト・ニのもと公募による新宿文化センター合唱団の皆様と共演しました。

第58回千葉市定期演奏会(2/1)

指揮：三ツ橋敬子 ピアノ：角野未来*
コンサートマスター：依田真宣

モーツァルト／歌劇『劇場支配人』序曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲第21番*
【ソリスト・アンコール】 シューマン＝リスト／献呈
ベートーヴェン／交響曲第7番



2月定期演奏会(2/18、23)／長岡特別演奏会(2/21) 撮影＝上野隆文／事務局

指揮：チョン・ミョンフン ヴァイオリン：岡本誠司* コンサートマスター：近藤 薫

ウェーバー／歌劇『魔弾の射手』序曲〈ウェーバー没後200年〉
ブルッフ／ヴァイオリン協奏曲第1番*
【ソリスト・アンコール】

J.S.バハ／無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第1番 短調 BWV1001 よりアダージョ(2/18)
同第3番 八長調 BWV1005 よりラルゴ(2/21)
同第2番 イ短調 BWV1003 よりアンダンテ(2/23)
メンデルスゾーン／交響曲第3番『スコットランド』



ドイツ・ロマン派の魅力に満ちたプログラムを、ベルリンを拠点に活躍するヴァイオリニスト岡本誠司とともに



オーチャード定期演奏会、メンデルスゾーン『スコットランド』終演の瞬間



事業提携10周年を記念した長岡特別演奏会(2/21)より

文京シビックホール 響きの森クラシック・シリーズVol.87(3/7)

撮影=K. Miura

指揮：角田鋼亮

ヴァイオリン：前橋汀子** ピアノ：谷 昂登*

コンサートマスター：近藤 薫

チャイコフスキー／歌劇『エフゲニー・オネーギン』

ポロネーズ

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番*

ベートーヴェン／ロマンス第2番**

マスネ／タイスの瞑想曲**

サン＝サーンス／序奏とロンド・カプリチオーソ**

チャイコフスキー／幻想序曲『ロメオとジュリエット』



東京フィルだより

新宿文化センター合唱団演奏会

マーラー／交響曲第2番『復活』(3/22)

指揮：アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)

ソプラノ：佐藤康子 メゾ・ソプラノ：脇園彩

オルガン：高橋博子(新宿文化センター専属オルガニスト)

合唱：新宿文化センター合唱団(合唱指導：山神健志)

コンサートマスター：近藤 薫



リニューアルオープンした新宿文化センターにて、多くの皆様とともに復活を祝いました

マーラー／交響曲第2番『復活』

薫風の候、皆様におかれましてはお変わりなくご健勝のことと存じます。

今月は、首席指揮者アンドレア・パッティストーニが登場し、

自身のオーケストラ編曲によるシューマンのピアノ曲『子供の情景』(世界初演)と、

天国的な響きが聴くものを魅了するマーラー「交響曲第4番」をお届けします。

指揮と作曲に充実を深めるマエストロと東京フィルのアンサンブルをお楽しみください。

引き続き、当楽団を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
ここに法人ならびに個人賛助会員(パートナー会員)の皆様のご芳名を掲げ、
改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー (敬称略)

ソニーグループ株式会社	代表執行役 社長 CEO	十時 裕樹
楽天モバイル株式会社	代表取締役会長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	中島 英樹
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	笠間 貴之

法人会員

賛助会員 (五十音順・敬称略)

(株)III
代表取締役社長 井手 博

(株)アイエムエス
取締役会長 前野 武史

(医)相澤内科医院
理事長 相澤 研一

アイ・システム(株)
代表取締役会長 松崎 務

(株)アシックス
代表取締役社長COO 富永 満之

(株)インターテキスト
代表取締役 海野 裕

ANAホールディングス(株)
代表取締役社長 芝田 浩二

(株)NHKエンタープライズ
代表取締役社長 有吉 伸人

大塚化学(株)
特別相談役 大塚 雄二郎

(株)オーディオテクニカ
代表取締役社長 松下 和雄

(公財)オリックス宮内財団
代表理事 宮内 義彦

カシオ計算機(株)
代表取締役 社長 CEO 高野 晋

キヤノン(株)
代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫

(株)グリーンハウス
代表取締役社長 田沼 千秋

サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 鳥井 信宏

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

(株)JERA
代表取締役社長CEO兼COO 奥田 久栄

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 蓮澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役社長 小澤 真也

ソニーグループ(株)
代表執行役 社長 CEO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 坪田 博行

(株)ソニーミュージックエンタテインメント
代表取締役社長 グループCEO 岩上 敦宏

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 宗森 耕二

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 堀江 正博

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 長島 誠

東京銀座ウエルネス&エイジングクリニック
院長 檜山 和寛

東レ(株)
代表取締役社長 大矢 光雄

TOPPANエッジ(株)
代表取締役社長 齊藤 昌典

DOWAホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 櫻井 紀之

(株)ニフコ
代表取締役社長 柴尾 雅春

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 福留 朗裕

三菱地所(株)
執行役社長 中島 篤

三菱倉庫(株)
代表取締役 社長 齊藤 秀親

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 清水 宣明

(株)明治
代表取締役社長 八尾 文二郎

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役会長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニアデックス(株)
代表取締役社長 田中 建

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長 今西 宏明

楽天モバイル(株)
代表取締役会長 三木谷 浩史

(株)リソー教育グループ
代表取締役社長 天坊 真彦

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 柳井 城作

旭化成ホームズ(株)
代表取締役社長 大和久 裕二

(医)エレル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)康明会
理事長 遠藤 正樹

(株)鈴元
代表取締役 鈴木 信史

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・垂蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一財)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 真吾

(株)日税ホールディングス
代表取締役会長 吉田 雅俊

(株)ネスト
代表取締役 太田 潤

富士通(株)
代表取締役社長 CEO 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年(明治44年)に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいち早く受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後さらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いつその発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただきましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(次ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	ゆうちょ銀行(郵便振替)	三井住友銀行・東京公務部(096)
口座番号	00120-2-30370	普通預金 3003239
口座名義	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団	

※寄附金額は自由に設定いただけます。

※振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入し、下記送付先へご送付ください。

寄附申込書の書式は下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。



寄附申込書・賛助会入会申込書はこちらからも取得いただけます。
<https://www.tpo.or.jp/support>

ご支援・賛助会に関するお問合せ／寄附申込書 送付先

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax: 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel: 03-5353-9521(土日祝日を除く10時~18時)

東京フィルの賛助会(応援団)に入りませんか？

2026年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立115年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは新しいシーズンも、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団



さまざまな形で青少年に演奏を届ける活動を続けています

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

法人会員	年会費1口
賛助会員	50万円
後援会員	30万円
パートナー会員	
ワンハンドレッドクラブ	100万円
フィルハーモニー	50万円
シンフォニー	30万円
コンチェルト	10万円
ラプソディ	5万円
インテルメッツォ	3万円
プレリユード	1万円

※オフィシャル・サプライヤーの詳細はお問い合わせください。東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。

その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」またはウェブサイト、東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{かのまた} 鹿丈)

Tel: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

活動のご報告

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。



フランチャイズ・ホール、事業提携ならびに連携協定について

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携、愛知県刈谷市と連携協定を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。



文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からはこれに加え関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022年度は九州・沖縄地区の担当としてC区分(小編成オーケストラ)採択を受け25校の小中学校を巡回したほか、中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受け3年間で29校の小中学校を訪問。2025年度は東北・関東地区の担当として15校の小中学校を訪問しました。

2026年度は関東・東海地区の担当として14校の小中学校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催する予定です。



小学校体育館でのオーケストラ本公演



留学生の演奏会ご招待・・・留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に來場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文



“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけなかった公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。



お問合せ・お申込み
東京フィルチケットサービス
電話:03-5353-9522
(10時～18時/土日祝休)

2月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

田中径子、平松恭子 (他、匿名2名) (五十音順・敬称略)



特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 周年事業や記念イベントとして大切なお客様を招待したコンサートを開きたい
- 商品や新事業のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 式典や学会などでの演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】 東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

Tel: 03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アシソエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宣
Masanobu Yoda

アシスタント・
コンサートマスター
Assistant concertmaster

坪井 夏美
Natsumi Tsuboi

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

第2ヴァイオリン
Second Violins

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴァイオラ
Violas

小峰 航一◎
Koichi Komine

須田 祥子◎
Sachiko Suda

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	梶 彩乃 Ayano Kai
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	佐竹 正史◎ Masashi Satake	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	芳野 円香◎ Madoka Yoshino	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブラリアン Librarian
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	岡村 彩香 Ayaka Okamura	小椋 陽咲 Hisaki Ogura	五箇 正明 Masaaki Goka	塚本 由香 Yuka Tsukamoto
高麗 正史☆ Masashi Korai	小栗 亮太 Ryota Oguri	杉本 真木 Maki Sugimura	木村 俊介 Shunsuke Kimura	藤田 恵輔 Keisuke Fujita	柳瀬 茉耶 Maya Yanase
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	佐藤 俊輝 Toshiki Sato	山内 正博 Masahiro Yamauchi	
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara		田場 英子 Eiko Taba		ステージマネージャー Stage Managers
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	テューバ Tubas	
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	豊田 万紀 Maki Toyoda	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki		リー・リーリン◎ Li-Ling Lee	西川 優弥 Yuya Nishikawa	萩野 晋 Shin Ogino	大田 淳志 Atsushi Ota
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	フルート Flutes	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山内 研自 Kenji Yamanouchi		古谷 寛 Hiroshi Furuya
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	鳥潟 さくら Sakura Torigata		ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	林 直樹 Naoki Hayashi	トランペット Trumpets	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi		川田 修一◎ Shuichi Kawata	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
		ファゴット Bassoons	野田 亮◎ Ryo Noda	秋田 孝訓 Takanori Akita	
		河野 星◎ Akari Kono	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	木村 達志 Tatsushi Kimura	
		チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	箕輪 綾子 Ayako Minowa	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata		中村 勇輝 Yuki Nakamura	
		井村 裕美 Hiromi Imura		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa		船迫 優子 Yuko Funasako	
		森 純一 Junichi Mori		古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フオアシュピラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホールなどでの定期演奏会や「午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、テレビ・ラジオ、インターネット等での放送・配信演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、これまでに4回のヨーロッパ・ツアー、創立100周年記念ワールド・ツアー、アジアでは2005年に日中韓3か国、2015年・2025年に東京とソウルの2都市で日韓国交正常化50周年・60周年記念コンサートなど多数開催。近年ではヨーロッパや中東からの招聘を受けるなど、国内外から高い評価と注目を集めている。2025年秋には名誉音楽監督チョン・ミョンフンとのヨーロッパ・ツアーを実施、各地で絶賛を博した。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を、愛知県刈谷市と連携協定を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。





Tokyo Philharmonic

In 2026, the Tokyo Philharmonic celebrates its 115th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, Tokyo Phil regularly performs both symphonies and operas. Tokyo Phil is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting the orchestra since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor, and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

Tokyo Phil has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand musical agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad. In the autumn of 2025, the orchestra embarked on a major European tour with its Honorary Music Director, Myung-Whun Chung. The tour was met with outstanding acclaim from audiences and critics alike across the continent, further cementing the orchestra's international reputation.

While Tokyo Phil is a frequent recipient of the ACA National Arts Festival Award in Japan, its recordings have been highly acclaimed internationally, winning the "OPUS KLASSIK 2021" award in the symphonic category (20th-21st century).

Tokyo Phil has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano, and Nagaoka City in Niigata, and also cooperation agreement with Kariya City in Aichi.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



東京フィルWEB

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	佐治 信忠
副理事長	大塚 雄二郎		鈴木 啓介
黒柳 徹子	小山田 隆		瀬谷 博道
	田沼 千秋		
専務理事	玉木 林太郎		
石丸 恭一	寺田 琢		
	遠山 敦子		
常務理事	野本 弘文		
工藤 真実	韓 昌祐		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務 経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	塚本 由香	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志	柳瀬 茉耶	沖汐 明日香	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		鹿又 紀乃	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			千木 加寿子	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
	吉田 結衣			安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	岡部 純	今野 芳雄	高野 和彦	新田 伸雄	松田 朋子
池田 敏美	小樽 敦子	齊藤 匠	高平 純	二宮 純	水鳥 路
磯部 保彦	小山 智子	坂口 和子	高村 千代子	二宮 祐子	湊 貞男
糸井 正博	甲斐沢 俊昭	嵯峨 正雄	竹林 良	野仲 啓之助	宮原 真弓
今井 彰	加藤 明広	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	畑中 和子	山本 友宏
井料 和彦	加藤 博文	桜木 弘子	田中 千枝	玻名城 昌子	山屋 房子
岩崎 龍彦	金崎 真由美	笹 翠	田村 武雄	福村 忠雄	吉田 啓義
植木 佳奈	川人 洋二	佐々木 等	津田 好美	藤原 勲	米倉 浩喜
上野 眞行	木村 友博	佐野 恭一	戸坂 恭毅	古野 淳	脇屋 俊介
生方 正好	黒川 正三	清水 真佐子	長池 陽次郎	細川 克己	
大兼久 輝宴	黒沢 誠登	須藤 三千代	長岡 慎	細岡 寛	
大澤 昌生	河野 啓子	瀬尾 勝保	長倉 穰司	本田 詩子	
大和田 皓	近藤 勉	高岩 紀子	新田 清枝	松澤 久美子	

〈発行日〉2026(令和8)年5月13日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

プランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉欧文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic *無断転載を禁ず(非売品)

～コンサートをお楽しみいただくために～

♪ チケットの座席番号もチェック！

・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

♪ 開演時間もチェック！

- ・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
- ・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

♪ 開演前に、お手元のお荷物や電子機器もチェック！

- ・演奏中の許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
- ・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
- ・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
- ・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

♪ 演奏中に気を付けたいことも同時にご確認ください！

・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

♪ カーテンコールにもマナーあり！？

・全てのプログラムの演奏後、指揮者と演奏者がお客様にステージの上でご挨拶いたします(カーテンコール)。カーテンコールでは、お客様からの拍手や声援が音楽家への最大の賛辞となります。スマートフォンや携帯電話での撮影やSNSへの投稿は、他のお客様の感動の妨げにならぬよう、またプライバシーに充分配慮してお楽しみください。

※開場中・休憩時間・終了後の場内は撮影可能です。ただしステージ上の楽団員や関係者の接写はご遠慮ください。終演時のカーテンコールのみ、ご自身のお席から、スマートフォン・携帯電話でのみ撮影いただけます。前半の終了時(休憩の前)は撮影できません。「フラッシュは使用しない」「他のお客様の顔が映り込まないようにする」など、周囲へのご配慮をお願い申し上げます。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪

Tokyo Philharmonic
Since 1911

Season 2026-27

